

# 名のる ◎なぜ名のってくれたのか◎

## 【エピソード】

李真美(い・じんみ)さんは在日韓国・朝鮮人 3 世、写真の専門学校に通っています。家族は彼女を「じんみ」と呼びますが、家の外では「島崎真美(しまざき・まみ)」という通称名(日本名)を使っています。幼いときから 2 つの名前を使い、今の学校の友達や昔の同級生はみんな彼女のことを「島崎真美」だと思っています。

ある昼下がりのこと。アルバイト先のレストランで、ランチタイムが終わって、厨房にいるスタッフがホッとしていたところ、目前に迫っている市長選挙のことが話題になりました。真美さんは自分に話がふられたら嫌だなあと思って、視線をそらしていました。

「マミちゃんも選挙行くんやろ。」

コックの純一(じゅんいち)さんが話し掛けてきました。真美さんは内心ヒヤヒヤしながら、「ええ、まあ」と応えました。純一さんは、さとすように言いました。

「ほんまはめんどくさーって思ってんねんやろ。あかんで、棄権したら！」

今ここで「自分には選挙権がない」なんて言ったら、向こうも驚くし雰囲気(おどろ ふんいき)を壊してしまう、真美さんはそう思って、黙っていました。すると、今度はホールスタッフ仲間で友人の由紀さんが話しかけてきました。

「ねえ、誰に投票するか決めた？」

真美さんは何も言えず、次の日からこのレストランに行くことさえおっくうになってしまいました。

あくる日のバイトの帰り、真美さんは由紀さんをお茶にさそいました。そこで、「私、ほんとは李真美(い・じんみ)っていう名前やねん」と思い切って本名を名のりました。しばらくの沈黙の後、由紀さんは真美さんにこう言いました。

「あなたが朝鮮人でも韓国人でも、関係ないよ。ずっと友人でいるからね。私たちは一緒だよ」

真美さんは時が経つにつれて、本当は由紀さんからもっと別の言葉を聞きたいと思っていた自分に気がきました。真美さんは心の中でつぶやきました。

「一緒なんかじゃないわ…」



### 対話の ために

- エピソードを読んで、気になったところはどこですか。
- 真美さんが本名を名のったとき、由紀さんはどんな気持ちだったでしょう。
- 真美さんの「一緒なんかじゃないわ…」という気持ちについて、想像してみましょう。

真美さんのひとりごと

私、ほんまは家の外でも「李真美(い・じんみ)」でいきたいよ。名前使い分けるのってしんどいし、めんどくさいもん。でも、バイト探してる時何件も履歴書送ったのに、本名書いた所は全部アウトやったもんなあ。電話でもそう。「島崎(しまざき)」って言ったら面接までこぎつけるのに、「李真美(い・じんみ)」って言ったら、その瞬間電話切られたことがある。大阪生まれの大阪育ちなのに「外国人はちょっと…」って断られたことも。

だから外では割り切らずずっと通称名を使ってた。やっぱり『名のる』のって勇気いるし。これまでも経験あるけど、本名を伝えると「いつ日本に来たんですか」って突然丁寧な言葉で聞いてきたり、「差別されてて可哀想<sup>かわいそう</sup>」って言われたり。名のればいやなことや腹立つことが多いもん。

今日も、由紀さんに話すとき、プレッシャーがあったん。「わかってくれるかなー」って。だから、「私たちは一緒だよ」と言われたときは、とりあえずほっとしたんだけど、時間が経つにつれて、だんだん悔しくなってきた。なんか、自分が可哀想な存在で、由紀さんになぐさめられてるみたい。な。「一緒」って何？

由紀さんのひとりごと

真美さんにお茶をさそわれて、「李真美(い・じんみ)」って本名を聞いたとき、「日本人」だと思ってたから、なんて答えていいかわからへんかってん。「名のる」ことに、そんなにプレッシャーを感じていたことも、真美さんの気持ちを知ってはじめて気づいた。それに、真美さんがバイトを見つけるときにそんな苦勞をしてたって、知らなかった。知らないことばかり。

でも、あのとき真美さんは真剣に話してくれているってことが伝わってきたし、どんな言葉を返せばいいかなって思った。最初に思い浮かんだのは、「日本人にしか見えないのにどうして？」という言葉。でも、そんなじゃ真美さんの気持ちに伝えられないって、すぐ思ったから「関係ないよ。私たちは一緒だよ」なんて言ってしまったんだけど、あのときはそれが私の精一杯。真美さんの表情を見ていて、もっと言葉をつづけたかったけど、それ以上何も言えなかった。ごめん。

これから、私なりに考えようと思うんだ。真美さんがなんで「李真美」と名のることが難しいのか。どうしたら、真美さんが「自然に名のる」ことができるようになるのか。そして、なんで私に名のってくれたのかを。だから、今度私がお茶にさそうまで、もうちょっと時間をちょうだい。



対話のために

- 真美さんが由紀さんから聞いたかった「もっと別の言葉」とはどんな言葉でしょう。
- 真美さんと由紀さん、これから二人の関係はどうなると思いますか。
- 他人の言動で傷付いた体験、逆に他人を傷付けてしまった体験がありますか？  
よければ、それについて話し合ってみましょう。

## 【ミニ解説】

## ◎歴史的経緯

大阪府で暮らしている外国人の約5割は韓国籍・朝鮮籍の人です。その多くは歴史的経緯によって、第二次世界大戦以前から暮らしている人とその子孫です。

戦後、さまざまな事情により多くの人が帰国できず、日本にとどまることになりましたが、そのときは日本国籍を有していた人が、その後の制度改革により外国籍の人＝外国人であるとされたのです。

現在、この人たちの中には、差別を避けるため、本名ではなく日本名（通称名）で生活せざるを得ない人もいます。

わたしたちみんながともにくらしていくためには、こうした歴史的経緯を理解することが大切です。

大阪府では、平成14（2002）年に「大阪府在日外国人施策に関する指針」を定めて、全ての人が人間の尊厳と人権を尊重し、国籍、民族等の違いを認め合い、共に暮らすことのできる共生社会の実現をめざし、在日外国人施策を総合的に進めています。

## 【参考資料】

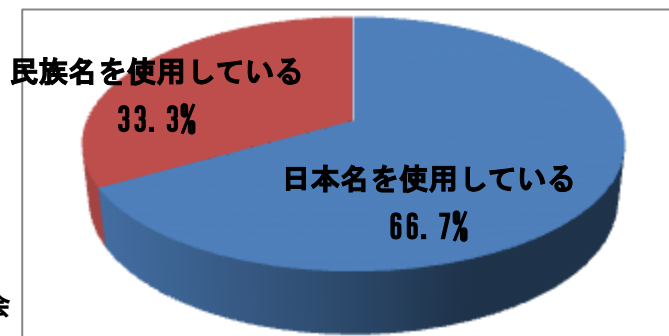
### ■ 大阪に住んでいる在日韓国・朝鮮人の人数

大阪府内の外国人登録国籍別人員調査結果（平成29年12月末現在）

韓国・朝鮮籍 107,090人（在留外国人数 228,474人）

### ■ 本名（民族名）・通称名（日本名）を使用している在日韓国・朝鮮人の割合（府立高校在籍生徒）

平成29年度  
「外国籍生徒に関する調査」  
大阪府教育委員会

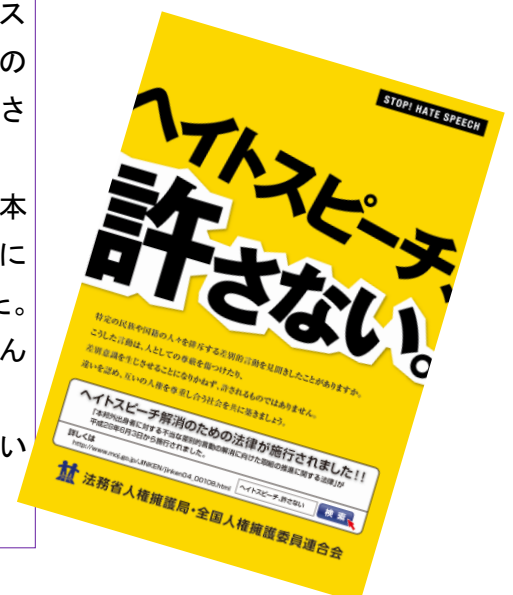


## ヘイトスピーチ 許さない。

特定の民族や国籍の人々を排除する差別的言動いわゆるヘイトスピーチは、人々に不安感や嫌悪感を与えるだけでなく、人としての尊厳を傷つけたり、差別意識を生じさせることになりかねず、許されません。

こうした差別的言動を解消するため、平成28（2016）年6月に「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」いわゆる「ヘイトスピーチ解消法」が施行されました。大阪府においてもヘイトスピーチの解消に向けて、啓発に取り組んでいます。

ヘイトスピーチを許さない、互いの人権を尊重し合う社会を築いていきましょう。



1 2001年(平成13年)5月11日、Aさんは、「ハンセン病違憲国賠訴訟の判決」という新聞の見出しに引きつけられました。Aさんは大学生の頃、サークルの仲間と国立療養所に出かけ、元患者のBさんの話を聞いたことがあります。Bさんは若い頃にハンセン病に感染し、療養所に住み続けて数十年。親からは縁を切られ、本名を名のることもできなかったこと。ハンセン病が完治して、外に出ることができるようになっても、故郷に帰ることはできないことなどを語ってくれました。記事を読んでいくうちに、Bさんの静かな語りのなかにあった、孤独や絶望や怒りがよみがえってきます。Bさんは、この判決を、この新聞をどのような思いで見られているのだろう。想像しようとしてつとめても、想像しきれない分厚いものがそこにあるような気がしました。



2 パン工場で定年まで勤めたAさん。第2の人生が始まったら、ぜひ、やってみたいことがありました。それはパソコンによるインターネット。早速、近所のパソコン講習に通って悪戦苦闘。何とか、操作もできるようになりました。でも、気になることがあるのです。インターネット上には時々アンケートがあり、自分の職業を選ぶ欄があります。自営業、会社員、医者、プログラマー…。いろんな選択肢の中で、Aさんが選ぶことができるのは「無職」だけ。悠々自適と思いつつも、何か寂しい感じがします。そうい



えば、パソコン講座でも、自分の肩書きをどう説明したらいいか悩んだことがありました。第2の人生を謳歌する自分を、どんなふうにおうかに名のればいいのだろう。そういえば、妻はいつも「主婦」と名のっているのだろうか。ふと考え込むAさんなのでした。